

都市構造可視化ツールの活用 ～適切な立地適正化計画策定に向けて～



出典： <https://www.photo-ac.com/main>

四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課

1.はじめに

立地適正化に関する国交省の取り組み

立地適正化計画の概要

居住機能や医療・福祉・商業・公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、都市全域を見渡したマスタープランとして位置付けられる市町村マスタープランの高度版

四国地整の取り組み

- ・策定及び変更にあたっての問合せ対応
- ・素案段階でヒアリングを行い、内容の確認

可視化ツールを用いた業務改善
より効果的な支援が出来ないか検討

立地適正化計画の意義と役割



出典：国土交通省

2. 取り組みと現状の課題

可視化ツールを取り入れようとした経緯

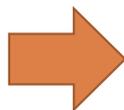
ヒアリングで取り上げられる議題

- ・都市機能誘導区域・居住誘導区域の設定は適切か
- ・災害リスク等の高い区域を避けられているか

課題

- ・各都市の課題を明確に把握しきれない
- ・市町村から提供されたデータ以外も確認したい
- ・なるべく作業を短時間にしたい

可視化ツールを使って
効率的に情報収集しよう



まず、担当者に可視化ツール
を使えるようになってもらおう

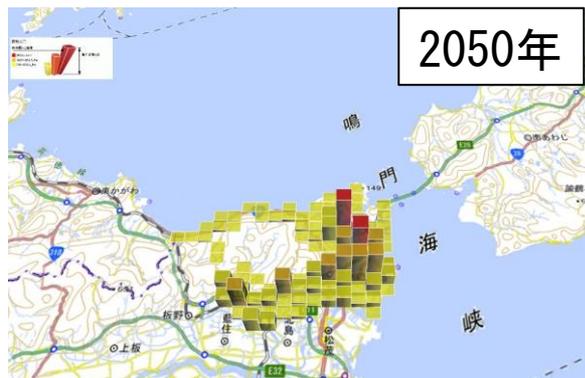
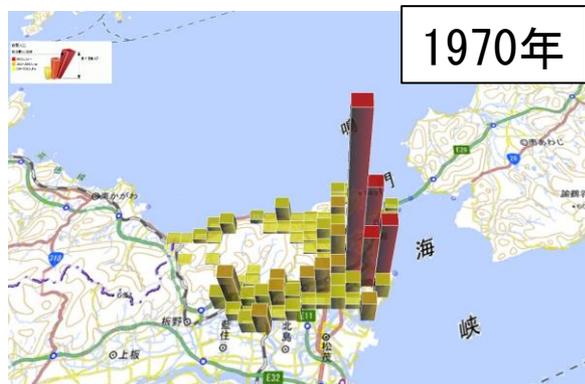
取り組み内容

- ・担当者に可視化ツールを用いた資料作成の方法をレクチャー
- ・実際に資料を作ってもらう（人口分布・将来の人口推移・災害リスクetc…）

4.活動内容報告

立地適正計画担当者の作成資料

1970年～2050年の人口推移



通勤通学の公共交通利用率



浸水想定区域



5.活動内容報告②

資料作成の実習の様子

担当者へのレクチャー



6.活動内容報告③

実施結果①

対象人数

2名（係長、係員 各1名）

説明時間

約1時間／人

資料作成時間

約40分程度／人

感想（1/2）

- ・可視化ツールに対してなじみが無かったので、はじめは理解が難しかったが、作業を通して、すぐに操作に慣れることが出来た。
- ・三次元で表示されることで、よりわかりやすい資料となると感じた。
また、誰でもすぐ作成出来るようになると思うので、日頃の業務にも使えると思う

6.活動内容報告③

実施結果②

感想 (2/2)

- ・可視化ツールで作成した資料を市町村との協議の際に共有するなどの応用ができると使用の幅も広がると思う
- ・立地適正化計画についてだけでなく、街路事業や連立事業の検討や事業効果を検証するときも使えるのではないか

実用性に向けての課題

- ・いろいろなデータを組み合わせるなど使いこなせるようになるにはある程度経験が必要
- ・業務用PCへの作業用ソフトのインストール（内部での調整）
- ・異動によるノウハウの喪失が無いよう引き継いでいくことが重要

世界的人気のガイド本『Lonely Planet』で
「四国」が世界6位に選ばれました！

